

積み木と明かりで作る繋がる物語



▲奥能登国際芸術祭"珠洲"
日本建築家協会ゴールデンキューブ賞
特別賞（見附島：珠州市宝立町鶯飼）



泰然+きみきみよ さんによるワークショップの様子

1月18日（木）三ツ星小学校で6年生を対象に、作家「泰然+きみきみよ（作家名）」さん（福岡県出身）によるワークショップが開催されました。

この事業は、大井川鐵道の無人駅周辺を舞台とした「UNM ANNEED 無人駅の芸術祭」を企画する、NPO法人クロスメディアしまだがアートプロジェクトの中で地域づくりの一環として実施するものです。

このワークショップは、光源にLEDを、反射材・遮蔽材に積み木を使い、「照明の良否は光源・反射・遮蔽のバランスによる」との知見を子どもたちが学ぶ、アート・サイエンスコミュニケーション活動です。あかりの行事や光の現象を見ながら旅する、紙飛行機の「こーき」が主人公の題材童話「あかりのありか（きみきみよ作）」には、文字以外の絵がありません。その絵を、子どもたちが積み木とLEDで読書感想「光」として表現し「絵本」を完成させます。

この日、児童は4グループに分かれ、物語に登場する4つの駅について、各々が頭の中でイメージする駅舎の風景を積み木と明かりで表現しました。



抜里駅



千頭駅



アプトいちしろ駅



長島ダム駅

Interview

大学で教鞭をとる傍ら、家具やインテリアのデザインなどを手がけています。また、造形作家として活動をする中で、実践の場を探しながら各地の芸術祭などに作品を展示しています。

子どもたちには、自分で主体的に明かりを使った作品を作ることで、明かりの美しさを学びながら、自分の住む町の魅力を再認識し、美しい明かり文化を大切にしてほしいと思っています。日本の教育では、外国と比べると、明かりを使った図工の授業は数少なく、こうした授業を行うことでもっと全国へ広めていきたいです。

また、子どもたちの作品を芸術祭に出展することで、他地域の住民にも明かりの魅力を感じ取ってほしいです。



いさみ やすのこ
諫見 泰彦 さん

- 福岡県出身
- 文化庁文化・芸術子ども育成推進事業登録芸術家
- 九州産業大学人間科学部子ども教育学科兼担建築都市工学部住居・インテリア学科准教授
- 作家名「泰然+きみきみよ」として活動を展開



積み木と明かりにより作成され、三ツ星小学校の図書室に出現した「奥大井湖上駅」

2月7日（水）、三ツ星小学校の2階、第2図書室に積み木と明かりで作成された巨大な「奥大井湖上駅」が完成しました。また、図書室へ向かう廊下には、以前のワークシヨップ（前項）で児童が作った、各無人駅の作品が写真（絵）としてパネルに掲示され、主人公「こーき」が旅する物語として順番に掲示されています。

各無人駅ごとの物語は、序章から巻末を含め全部で1章から12章まであり、新金谷駅から旅する「こーき」が、ゴールの奥大井湖上駅を旅するストーリーです。そのうち、新金谷駅・神尾駅・家山駅を島田市の六合小学校の児童が手がけ、抜里駅・千頭駅・アプトいちしろ駅・長島ダム駅を三ツ星小学校の児童が手がけました。ゴールの奥大井湖上駅は、泰然さんと児童の共同作業により休み時間などを利用して作成されました。また、照明効果は川根高等学校の生徒が担当し、迫力のある作品が完成しました。

作品は、2月10日（土）から3月17日（日）までの37日間にかけて開催される【UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川2024】で展示されます。ご都合のつく方はぜひ三ツ星小学校まで足を運んでみてください。



いたやのぶ 板谷岳信君(水川区)、いたやほと 板谷陽音君(水川区)

Interview

タブレットで調べて景色を見たり、泰然先生に教えてもらいながら作ったよ！

積み木だけでこんなに大きい作品が作れてビックリ！すごくキレイにできてうれしいです。



▲昼休み等の休み時間には、1年生から6年生までの児童が積極的にアートづくりに参加しました。